

第1回佐賀市社会教育委員の会議 会議結果(概要)

1 開催日時 平成 27年 5月 25日(月)午後 14時 00分～16時 30分

2 開催場所 大財別館 4-2 会議室

3 出席した者の氏名

○社会教育委員

永野篤子、藤井英貴、木原久美子、平川哲男、谷口仁史、池田俊明、上野景三、田口香津子、碓恵美子、熊本由美子（桑原委員、鶴丸委員は欠席）

○事務局

江副社会教育部長、中島社会教育副部長兼社会教育課長

【社会教育課】小林副課長兼社会教育係長、中村副課長兼青少年指導係長、馬郡子どもへのまなざし運動推進室長、深川庶務係長、栗山社会教育係主任、吉田庶務係主事

【協働推進課】鶴課長、中野主幹兼公民館支援係長、蘭公民館支援係主査、中島蓮池公民館長、田中勸興公民館主事

4 傍聴者 2名

5 議題

(1)平成 27 年度社会教育課・協働推進課(公民館)事業について

(2)社会教育助成事業補助金について

(3)公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラムの評価について

○議事

(1)平成 27 年度社会教育課・協働推進課(公民館)事業について

第三次佐賀市教育基本計画に掲げた事業のうち、今年度の社会教育関係事業の計画及び課題・問題点について説明。

【主な意見】

◆事業計画、成果指標について

- ・ 目標値を達成するような取組内容となっているのか、潜在的なニーズがどの程度あるのかという「カバー率」を念頭においてやらないといけないのではないかと、十分に実施されていない事業について、「なぜできないのか」という問題点を把握しているか、などのポイントを踏まえながら、目標を定め、事業に取り組む必要がある。
- ・ 「地域行事等へ参加している割合」というのは、一回やっただけでカウントされる集計なのか。地域において 3 割以上の方が地域行事へ参加しているとはとても感じられない。
- ・ 「生涯学習が必要」とされているが、まずはその必要性の市民への PR を考えなくてはならない。

◆青少年教育、子どもへのまなざし運動について

- ・ 問題が深刻化・複雑化しており、いかに不断的な、切れ目の無い支援体制をつくれるかが重要。新しい青少年センターは、つなぐ役割である公民館で拾い上げ、青少年センターに集約し、専門職員や関係団体とともに解決するという、いわゆるハブ機能を期待する拠点となると思う。
- ・ 子ども会やまなざし運動など、小学生には目が向いているが、中学生にはなかなかいかない。中学生にも、地域活動等に参加させて、自分が役立つという意識、体験を得ることが必要だと思う。
- ・ 昭栄中学校 PTA では、地域の方が学校へ入り、子ども達が地域へ出て行くという環境づくりを今年から取り組んでいる。ネットワークが広がり、子ども達の出番も広がってくると思う。
- ・ 地域教育コーディネーターがいる間は学校と地域がうまく連携できていても、いなくなると続かない。その繋ぎの部分が難しい。
- ・ 学校職員も必ず異動があるので、地域の中におられるコーディネーターや公民館主事が大きな窓

口となっていると感じる。

- ・ まなざし運動は今年で8年目になるが、まなざし運動と知らずにやっていたということを今もよく聞く。
- ・ こういうことがまなざし運動なんだと分かるような具体的な行動を含めてPRをすれば、自分もできる、やっていると感じるのではないか。

【事務局回答】

- ・ 成果指標はアンケート回答なので、地域行事に参加したかどうかという一方的な投げかけで、どの程度参加しているのか、1回だけなのか、そこまでは追跡できないのが現状である。
- ・ 地域教育コーディネーターの配置後に、地域と学校のつながりが徐々に希薄になっているのは事実としてある。コーディネーターと学校の両方に、その後の連携についてお願いしているところである。
- ・ まなざし運動についての理解を深めるため、今年度からまちづくり協議会に出向いて、改めて説明を行っている。原点に立ち返って啓発活動をしていこうと考えている。

(2) 社会教育助成事業補助金について

社会教育関係各団体へのヒアリング結果等を踏まえて、今後の補助金交付のあり方の意見を求めた。

【主な意見】

- ・ 従来から地域で行政と協力しながらやってきた団体の役割と、自主的に市民活動を実践している団体の役割をどう位置づけていくのか、検討していく必要がある。
- ・ 団体への補助金として出すのか、地域やコミュニティ別におおしていくのか、あるいは補助金自体が適正なのかといったいろんな意見があるが、補助金を出すことによって佐賀市の社会教育の諸活動が活性化するかということを念頭に置いて議論をしなければならない。

【事務局回答】

設立の経緯や目的などが異なる団体の補助金を、一律に見直しを行うのは非常に難しい。より詳しく団体に聞き取りを行い、団体の存続を含めて金額などを検討し、個別に整理していく必要があると考える。

(3) 公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラムの評価について

「未来へ語り継ぐ歴史のまち蓮池創生事業」及び「学びあうコミュニティの創出と支援者育成プログラム」について、事業の取組内容を報告し、社会教育委員による第三者評価を求める。

【質疑応答】

- ・ 蓮池の事業は芋茶粥やだご汁など飲食が多くあるが、文科省の予算が打ち切られてこれらの事業が継続できなくなるということはないのか。
→蓮池ではこれまで無料で提供していたが、文科省から「何らかの形で受益者負担を取るべき」と指摘を受け、また事業継続の面からも検討し、昨年から50円、100円程度の負担を載っている。
- ・ 地域の会議や行事等について、公民館主事が主導していくべきか自治会長など地域の人が主導すべきか、自治会長は毎年半分くらいが交代するので難しいところであるが、どう考えるのか。
→地域の人材育成、自主的な運営が最終目標と考えているので、その前段階として主事とともに地域活動を支援していきたい。

○報告事項

平成27年度から平成31年度までの5年間のスポーツ推進計画の策定について、スポーツ振興課から概要説明。特に意見なし。